様式６

幼児教育長期派遣通信　１学期号

発行　令和７年７月 18 日

三次市立八次小学校　金子　真代（派遣園・所：三次市東光保育所）

幼児教育長期派遣研修として、１年間東光保育所にて、乳幼児期に、子供たちがどのようなことを経験し、学び、育ってきたのか、小学校教育にどのようにつなげていくことができるのか乳幼児教育の実践を体験しながら理解を深めているところです。

１　１学期の研修内容

（1）園内研修

・保育補助、園外保育引率補助（主に年長児クラス）

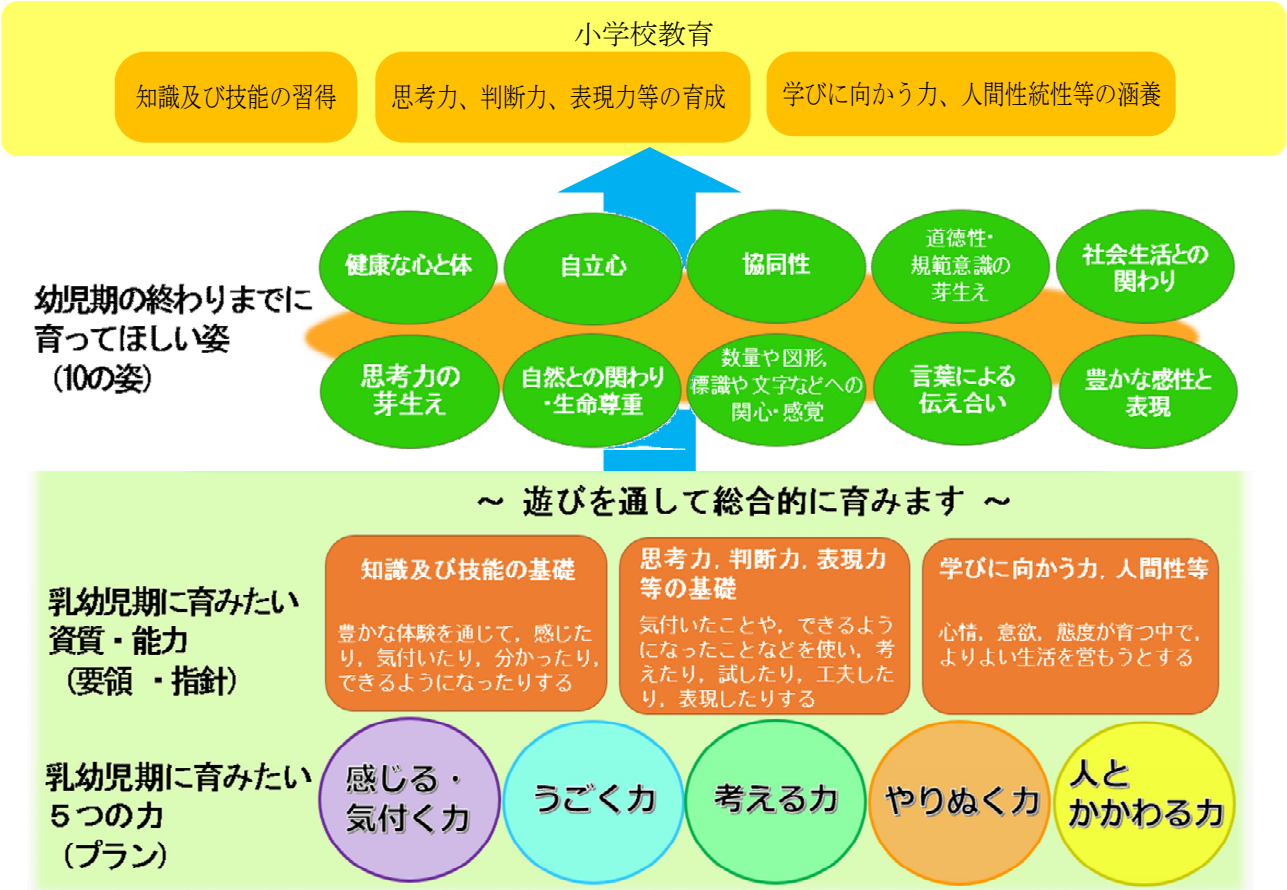
（2）園外研修

・幼児教育理解に係る研修　・スタートカリキュラム授業参観（八次小学校）

・接続にかかる研修会　・幼児教育長期派遣研修報告会　・幼保小連絡会、連携推進協議会

２　研修を通して

本県では、「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造することのできる人材」を育成していくことを目指しています。生涯にわたって主体的に学び続けるために、乳幼児期の日々の生活の遊びの中から「探究の芽」を育んでいきたいと考えています。「探究の芽」即ち、「自ら課題を見つけ、課題の解決に向けて探究する力」を乳幼児期から育成することを目的として、目指す乳幼児の姿を「遊び　学び　育つひろしまっ子！」とし、育みたい５つの力を設定しています。



「遊び　学び　育つひろしまっ子！」推進プラン(第２期)より

様式６

研修を通して、５つの力が育まれていると感じた場面を紹介します。

どうしたら勝てる？
～しっぽとり作戦会議～

参観日でおうちの人とするしっぽ取りの練習。
しっぽも自分で作ったよ。

うごく力　考える力　人とかかわる力

「〇〇ちゃんがさ、先に行って、その後ろをぼくが追いかけてしっぽを取るよ。」
「相手におしりを見せんように走るとか。」
「３人とかで囲んだらいいんじゃない。」

【思い切り体を動かせる環境】裸足で足の裏をしっかり使いながら走ることで体幹を鍛えることにもつながっている。
【何度もできる時間設定】何度も同じゲームを行うことで、幼児たちは自分の動きを考え、前回の失敗や成功体験を生かしながら飽きることなく楽しんでいた。
【勝敗だけが全てではない】保育者が、２回戦目と３回戦目の後に相手チームの残っている人数が減っていることに着目させることで、負けても自分たちの作戦が有効であったことを学ぶことができた。

楽しく準備「なつまつ

なつまつりの屋台準備をがんばるぞ。
自分たちが出した意見を本当に形にできてうれしい

〈金魚すくい〉
「（ビニール袋は）引っ張っとったら切りやすいよ。」
「じゃあ持っとって。」
「光にあてたらきらきらする！」

考える力　やりぬく力　感じる・気付く力　考える力　感じる・気付く力　人とかかわる力

【興味をもった時に取り組める環境】
友達の様子から「何か楽しそうなことをしている。」と感じ、次から次へと集まって取り組み始めていた。

【相手意識・想像力を膨らませる声掛け】
「何屋さんてすぐわかる看板にするにはどうしたらいいかな。」などの声掛けで、制作に夢中になりつつも、子供たちの中に常に相手意識をもちながら制作を行う。

〈飾り付け〉
「絵具気持ちいいね。」「見て見て、色まざった！」
「屋台の看板は、りんごアメだから、赤にしよう。」
「まわりにりんごアメ描いてもいいんじゃない。」
「白と赤混ぜてピンクみたいな色になった。」
「金魚すくいは、水の中じゃけえ、海の生き物も描こう。」
「海の生き物って何がおる？」

３　まとめ

遊びの中から、小学校教育につながる学びの芽がたくさん芽生えています。子供たちは予想以上に多くの経験をしていました。その経験を知り、広めていくことで幼少期に育んだ力を小学校でさらに伸ばし、つながりのある教育へと発展していくのではないかと感じています。

〈乳幼児教育支援センターより〉
東光保育所での保育を通じて、これまで見えていなかった就学前の子供たちの学びの様子が遊びの中からたくさん把握できていますね。こうして遊びを通じて学ぶことの楽しさを知り、積極的に物事に関わろうとする気持ちをもった子供たちは、小学校でどのように学びに向かっていくと思いますか？だとしたら、どのように小学校で受け入れるのか、これから考えていきましょう。